

# 道路



## 文里湾横断道路の整備

**問** 文里湾への架橋は、田辺市津波避難困難地域解消計画で津波から命を守るために必要であるとされ、取組を進めていく必要がある。知事はどう考えているのか。

**答** 田辺市の計画に位置づけられたことで、市が考える津波からの避難方法と文里湾架橋の矛盾がなくなりました。さらに、田辺市長からも「避難路、避難場所としても文里湾架橋が必要」と強く要望され、懸念は一切なくなりました。今後は、田辺市と連携し、関係機関との調整やルートの詳細な検討など、文里湾架橋の実現に向けて取組を進めていきます。

## 地域道路の整備

**問** 県道岩出海南線を利用する境原地域などの和歌山市東部地域に必要な道路整備をどう考えているのか。

**答** 現在、県では、境原地域を含む市の東部を通過する広域交通を処理するため、都市計画道路松島本渡線の整備を推進しています。一方、地域住民の方々が日常生活で利用される道路については、沿道利用の状況、整備効果の早期発現などの観点から、バイパス整備ではなく、現道の拡幅や線形改良といっ

た整備を基本としています。県道岩出海南線については、松島本渡線の整備により通過交通が排除される見込みがあり、また生活道路であることから、現道を活用した整備が有効と考えています。用地のご協力が前提となりますが、車両の円滑な対向、歩行者の安全確保などの観点から、特に狭隘な箇所での整備について検討していきます。

## 道路案内標識の追加設置

**問** 黒河道などが世界遺産に追加登録されることから、京奈和自動車道と周辺一般道路に道路案内標識を追加設置すべきではないか。

**答** 今年度内には、京奈和自動車道が阪和自動車道と西名阪自動車道に連結され、本県と近畿・中部圏を結ぶ高速ネットワークが完成することから、観光客の増加が予想されます。さらに黒河道などが世界遺産に追加登録される見込みであることを踏まえ、円滑かつ安全に誘導し、観光振興にもつながる道路案内標識の設置が実現できるよう、関係機関と調整していきます。

なっているが、さらに水質がよくなることで人が集まり、人々のつながりも深まってくると考えられる。今後さらに浄化を進める考えはないか。

**答** 市堀川のさらなる浄化には、河川等に流れ込む生活排水等の対策が有効と考えています。南海和歌山市駅前周辺は既に和歌山市において下水道整備が完了しており、引き続き接続率の向上が望まれます。市堀川の浄化を進める観点からも、今後とも和歌山市と連携し、下水道への接続率向上を図るべく啓発等を行っていきます。

# 交通

## 南紀白浜空港の利活用

**問** 南紀白浜空港は東京と1日3便、計6回の離発着しかない。県も日本航空も互いに努力はしているが、今一步利用者が満足する料金体系とはなっていない。競争原理を刺激するため他の航空会社への誘致活動はどうか。

**答** 県としては日本航空に對して新たな割引の導入による料金低減をさらに働きかけていくなどお願いしていきます。また他の航空会社の就航についても取り組んでいきます。

# 教育・文化

## 教職員の多忙化解消

**問** 教職員の多忙化が大きな社会問題となっているが、県教育委員会としては、その解消に向けてどう取り組んでいるのか。

**答** 研究指定校事業の削減や校務支援システムの導入など、多忙化の防止と解消に向けた対策を講じてきました。さらに、学校に対する調査やアンケートの精選、会議や研修会の簡素化・統合などに取り組むとともに、市町村や県立学校に対し、年度当初に勤務負担軽減の改善ポイントを示して指導を行ってき

リーフレットの配布やテレビなどを使った広報など様々な方法で、より多くの皆さんにその価値を知っていただけるよう取り組んでいきます。



# くらし

## 県営住宅の保証人制度

**問** 障害者がアパート等の入居時に求められる保証人制度について、県が管理している県営住宅では、どのように対応しているのか。

**答** 県営住宅の入居時には、原則入居者の親族2名以上を連帯保証人としていますが、少子化等の社会状況の変化もあり、連帯保証人を確保することができない場合は、親族でない方を保証人と認めるなど、最大限の配慮をしています。なお、障害者福祉の観点から、どうしても保証人を確保できない場合は、保証人のあり方も含め、今後検討していきます。

## 岩橋千塚古墳群出土品の活用

**問** 去る8月17日に大日山35号墳の出土品が国の重要文化財として指定された。今後の活用をどのようにしていくのか。

**答** 活用については、紀伊風土記の丘資料館においての特別展や、記念講演会及びセミナーを開催することとしていきます。また、指定された埴輪類については、常設展で展示することも解説

## 感震ブレイカーの普及

**問** 高齢者や障害者などの要配慮者の命を守るため、市町村が感震ブレイカー普及のための支援制度をつくることに対して、県として支

援をしてはどうか。

**答** 基本的に、感震ブレイカーの設置は個々の家庭で行う「自助」の問題であると考えています。しかし、わかやま防災力パワーアップ補助金では、個々の家庭の家具転倒防止について、高齢者等、災害時の避難に特に配慮を要する方に対して市町村が補助をする場合は交付対象にしていますので、感震ブレイカーの設置についても前向きに検討していきます。

# 健康・医療

## 有田保健医療圏の地域医療構想

**問** このほど策定された地域医療構想では、有田圏域における高度急性期の医療需要と必要病床数がゼロとされているが、どんな議論がなされたのか。また、今後の医療提供体制はどのようなのか。

**答** 有田保健医療圏における地域医療構想の策定にあたっては、地域の医療関係者などで構成する圏域別検討会の開催を重ね、意見を反映させたところです。高度急性期医療は和歌山医療圏に依存するものの、急性期、回復期及び慢性期医療については、住み慣れた地域で適切な医療を受けることができる体制の構築を目指します。